

徳法寺

報恩講のご案内

開催日 5月31日 日曜日

午後1時半より 正信偈のお勤め

午後2時より 法話 末井慧見氏
「生まれ、生きるとは何か」

午後3時より アフタートーク・質疑応答

末井 慧見（まつい さとあき）

2018年3月、大谷大学真宗学科卒業。2018年4月から2023年11月、会社勤務を経て、2024年1月から現在、金沢市須崎町の本浄寺にて法務をなさっています。

講師からのメッセージ

慌ただしく流れる時間の中で、一旦足を止め、生まれ生きるということを一緒に聴聞していければと思います。



古代の城跡

杉谷 淨

昨年暮れに亡くなった義叔父に手を合わせるために、兵庫県たつの市にある叔母の家を訪ねました。

たつの市は、古代日本では倭（やまと）、筑紫（つくし）、出雲（いずも）と並ぶ四大王国（四大王権）の一角であった吉備（きび）国の東部に位置しており、律令制のもとでは播磨（はりま）国の一部であった由緒ある場所で、中心部には七世紀末に造られた城山城（きのやまじょう）跡があります。

倭朝廷は、鉄の素材や軍事物資などを入手するために、朝鮮半島にあった百済国と軍事同盟を結んでいました。五世紀初期、百済の求めに応じて派兵した倭軍が高句麗軍と戦った記録が、中国にある石碑に刻まれています。この頃、倭王が朝鮮半島における軍事指揮権を、中国の王朝から認められていたと、中国南朝に朝貢した時の記録に書かれています。

七世紀半ば、中大兄皇子（後の天智天皇）は中臣鎌足（後の藤原鎌足）と共に蘇我入鹿を暗殺（乙巳（いつし）の変）し、大化の改新によって天皇中心の中央集権を進めました。この頃、唐と同盟を結んだ新羅の攻撃により百済が滅亡してしまいます。そこで中大兄皇子は、百済を復興させるために四万七千人もの大軍を朝鮮半島に派遣しますが、二十万ともいわれる唐・新羅連合軍に迎撃され大敗してしまいます（白村江（はくすきえ）の戦い）。唐軍が倭に

攻め込んでくる事を恐れた天智天皇は、対馬や壱岐などに防人（さきもり）を配備し、筑紫大宰（大宰府）には土塁と外濠を合わせ持つ水城（みづき）を設置しました。さらにそれらを突破された時の備えとして、吉備、伊予、周防などにも朝鮮式古代山城の防衛砦を築きました。その一つが、たつの市の城山城跡です。これをも突破された時の備えとして、天智天皇は当時難波にあった都を内陸の近江京（大津宮）へ移しています。実際には、唐・新羅連合軍は朝鮮半島北部にあった高句麗との戦いに向かったため、攻め込まれることはありませんでしたが、戦への備えは人々には大きな負担となりました。唐との友好関係が修復されると、これらの山城は役割を終え、忘れ去られていきました。



たつの市の古代城山城跡

時は下って、後醍醐天皇が鎌倉幕府打倒を掲げ挙兵（元弘の乱）した際、延暦寺の僧であった赤松則祐は、後醍醐天皇の皇子で天台座主であった護良（もりよし）親王と共に討幕に参加し、京都の六波羅探題を攻撃し鎌倉幕府を滅亡に導きました。足利尊氏が後醍醐天皇に反旗を翻して敗れた際には、足利尊氏が九州へ落ち延びるために、播磨の感状山城（かんじょうさんじょう）で後醍醐天皇の軍を足止めしています。これらの功績により、赤松氏は足利幕府の軍事部門を担当する家柄となると共に播磨の守護職となります。この赤松則祐が、南北朝期に敵対する南朝への備えとして、廃墟となっていた城山城跡に新たな城山城を築城しました。

赤松氏が没落した後、百年近く城山城は荒廃していましたが、山陰の戦国大名、尼子晴久が播磨へ侵攻する際に二年間本拠地として用いられています。尼子勢が播磨から撤退した後は、使われずに廃城となり現在に至っています。

城山城跡は、九州から瀬戸内地方にかけて十六カ所ある、神籠石（こうごいし）遺跡の一つです。この遺跡群の存在は全く伝承されておらず、明治期に遺構のみが確認されたものの『日本書紀』などには記載がないことから、長らく正体不明の遺蹟として議論されてきました。近年は少しずつ解明されており、たつの市の城山城跡は歴史的に確認されたものの一つです。しかし、まだ多くの遺蹟は誰が何の目的で造ったのか、謎に包まれたままなのです。

本の紹介

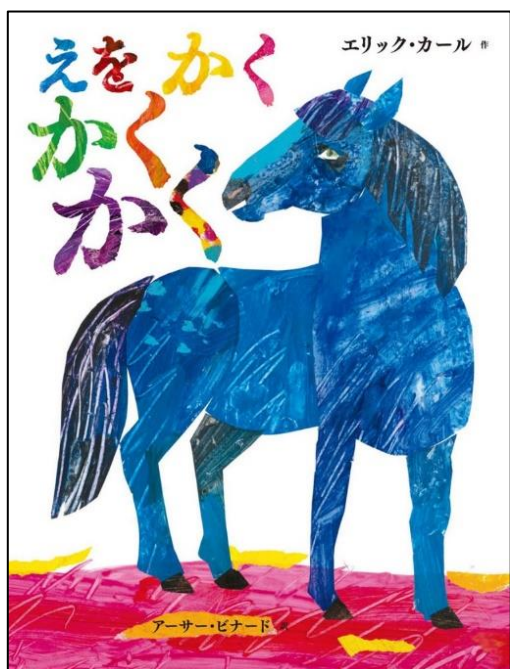
『えをかくかくかく』

作 エリック・カール
訳 アーサー・ビナード
偕成社 2014年

今年(うま)は午年なので、青い馬が表紙の絵本を紹介し
ます。

作者は、エリック・カール。そう、『はらぺこあお
むし』をはじめ、およそ九十冊もの絵本で誰もが知
っている作家です。

主人公の僕は絵筆を持って、あおいうま、あかい
ワニ、きいろいうし、ピンクのウサギ、みどりのラ



イオン、オレンジいろのゾウ、むらさきのいろのき
つね、くろいしろくま(?!)、最後には水玉模様
のろばを描いてしまいます。

この本は彼の晩年の作品で、「フランツ・マルク
の絵にみちびかれて」というサブタイトルが付け
られています。最終ページには、フランツ・マルク
の青い馬の絵と『この絵本のはじまり』という文章
が載っています。

フランツ・マルクは、1880年ドイツに生まれ、
色あざやかな動物の作品で知られています。第一次
世界大戦中のヴェルダンでの戦いで、頭を撃ち抜かれ
て三十六歳という若さで亡くなりました。画家とし
て活動したのは十年ほどで、「青い馬」の絵は191
1年の作品です。戦地でも常にスケッチブックを持
っていたそうです。

エリック・カールは、1929年アメリカで生ま
れ、六歳の時に家族とドイツへ移住し、美術学校へ
進みます。ナチスドイツの政権下では、人々の生活
はきびしい統制下におかれ、自由に絵を描くことは
できなかつたのですが、ある日、学校の先生が、こ
っそりと家に招いてくれました。そして、フランツ・
マルクの『青い馬』の複製画を見せてくれたそうで
す。ヒトラーは、「青い馬などいるはずがない」とい
って、『退廃した芸術』として人々が鑑賞すること
ができないようにしていたのです(註)。

この時の色彩にあふれたアートを目にした経験が、
のちのカールの作品の数々を生み出したといえるの
ではないでしょうか。

— ふしぎな色の動物たちは、あの日からずっと
ぼくといっしょに生きてきてくれたんだ。

この絵本はマルクへのオマージュであり、202
1年に九十一歳で亡くなったエリック・カールから
私達へのメッセージともいえると思います。

— えをかくこと、それはのびのびといきること。

なにいろでかくか、それをかんがえるのも

とつても だいじ。

まちがったいる? そんなものはない。

いちばんびつたりのいろを ひとりひとり

じゆうにじぶんで ずっとさがすのだ。

(註) ナチス政権下ではフランツ・マルクだけでな
く、ピカソ、シャガール、クレー、クリムトなど
二〇世紀を代表する現代美術家たちの作品も同じよ
うに弾圧を受けました。芸術作品のみならず、19
33年、ケストナー、フロイト、マルクス、マンら
の著作、およそ二千冊がベルリンの広場で焼かれま
した。多くの人々は、ナチスへの恐怖や周囲の同調
圧力から、焚書への参加や黙認を選んだのです。

(杉谷 登紀子)

徳法寺からのご案内

心の相談室

毎月第四土曜日の午後三時から午後五時まで
横安江町商店街にある「いちよう館」二階にて真
宗大谷派の僧侶による「心の相談室」を開いており
ます。個室で相談をお受けします。仏事はもちろん、
家庭や職場、学校など、どのようなお話もお聞きし
ます。相談は無料です。予約も必要ありません。相
談内容は一切外に漏れることはありませんので、お
気軽にお訪ねください。

サンガ茶話会

毎月第一木曜日の午後三時から午後五時まで
横安江町にある東別院敷地内「真宗会館」一階囲
炉裏の間にて「心の相談室」スタッフによる「サン
ガ茶話会」を開いております。座談形式となってい
ます。僧侶やその場に集まった方々とお話ししま
せん。いろいろな方に聞いてほしい話、聞いてみたい
話がある方はお気軽に参加してください。他の参加
者の話を聞いていただけでも構いません。参加は無
料です。予約も必要ありません。出入りも自由で
す。途中参加、途中退室でも大丈夫です。お茶と
お菓子を用意してお待ちしておりますので、お気
軽にご参加ください。

徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺前任職 杉谷淨

- 四月 足利仏教 十八 織田信長3
- 五月 足利仏教 十九 織田信長4
- 六月 足利仏教 二十 羽柴秀吉1

今年の大河ドラマは、羽柴秀吉の弟・羽柴秀長を
主役にしています。名前に、信長の「長」を与えら
れていることから、兄以上に重用されていたとも
考えられますが、物語として取り上げられることが
あまりなく、知られることが少なかった人物です。
歴史的検証により近年注目されてきたことで、大河
の主役に抜擢されました。

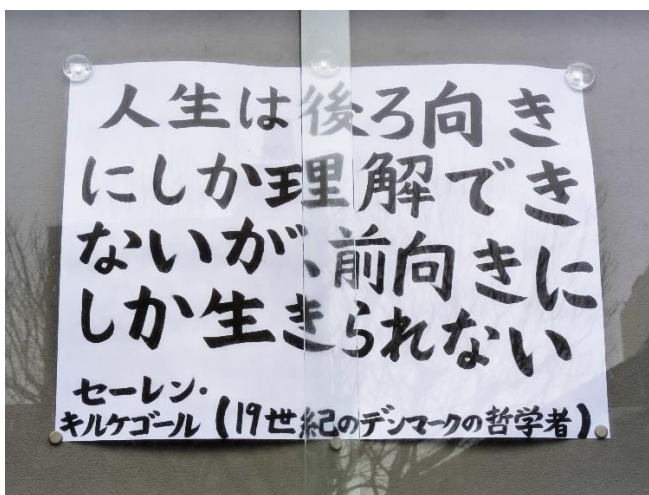
逆に有名であるのにドラマに登場していないのが、
信長の正妻とされている濃姫（もしくは帰蝶）です。
美濃（みの）の斎藤道三の娘であることから「濃姫」
とされていますが、正式な名前は伝わっていません。
人物像も江戸時代に書かれた物語によって作り上げ
られたもので、歴史的な資料はほとんど残っていま
せん。このためか、ドラマでは妹・お市が信長の相
談役として登場しています。歴史は書き換えられ続
けているのです。

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご
参加ください。

編集後記

前々から着手したいと思っていた、お寺の掲示板
を書き始めました。偶々通りかかった人にも言葉が
伝えられるという、少し特殊な文化ですよね。

仏の教化の言葉を書いておくのが王道だとは分か
りつつも、今回は哲学の名言を張り出してあります。
今後定期的に書き換えていこうかと思っております。
その際にはこちらにも掲載させて頂きます。



表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

Tel 076 (241) 5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>